

### 3 地域の文化との比較による授業展開例

教科(科目)	世界史 A	単元名	ユーラシアの交流圏...遊牧社会の膨張とユーラシア... (2時間目 / 4時)
本時の主題	農耕民族と遊牧民族の生活の比較をとおして、遊牧民族の発展を考察する		
本時の目標	<p>郡上郡の馬に関連する話題から、地域と馬についての関心・意欲を高める。 【関心・意欲・態度】</p> <p>馬をキーワードに日本の農耕文化についての理解を深め、遊牧民の文化との比較から二つの文化の相違について考える。 【思考・判断】</p> <p>遊牧民の生活から彼らが何故中国の王朝を侵略し、また、東西交易路を支配しようとしたかを思考し、その理由を理解する。また、内陸アジア世界が東西交流にとって果たした役割を考え、遊牧民の歴史について理解する。 【知識・理解】</p>		
指導のねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・なじみのない馬と地域の歴史とをつなげる 5分</li> </ul>	<p>日本での馬の存在を考える .....我々の住む地域は馬とは関係のない地域なのか？ 郡上の馬生産の歴史 郡上踊り『春駒』(はるこま)は何の歌？ 「毛付け馬市」(けつけうまいち)って何？ 明宝村の「磨墨公園」(するすみ)の「磨墨像」は何？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ については事前に宿題として提示しておき、自分の住む地域の村・町史やお年寄りに聞くなど史的情報を集めておく。【関】</li> <li>評価方法 調査結果の提出。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人にとっても馬が生活に密着していたことを理解させる 15分</li> </ul>	<p><b>Question 1</b> _____</p> <p>前近代において、郡上の民にとって馬はどのような存在だったのか？</p> <p>参考資料を読んで答えをまとめる。 (資料：『明宝村史』『図説郡上の歴史』『手作りの資料館』から抜粋) 郡上での馬の役割を確認することで日本での馬の役割を考える。(農耕社会での馬の役割)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の読解 【思】</li> <li>評価方法 挙手による発表。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・東西交流の中間にあった民族や地域の様子を知る 25分</li> </ul>	<p>草原・オアシス地帯の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居住地域を地図で調べて発表 (現在の国名・地名で発表)</li> <li>・騎馬文化をひろめた民族について図表で確認</li> <li>・草原・オアシス地帯に勢力を形成した民族を図表で確認</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・馬を最大限に利用することで生活を成り立たせていたことを理解する 35分</li> </ul>	<p><b>Question 2</b> _____</p> <p>遊牧民にとって馬の役割は？</p> <p>班ごとに考える 日本人にとっての馬の存在と比較する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>班内で意見をまとめ発表。【思】</li> <li>評価方法 班ごとの発表。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・シルクロードなど交易ルートが東西に大きく影響を与えたことを理解する 40分</li> </ul>	<p><b>Question 3</b> _____</p> <p>遊牧民は何故文明圏や東西交易ルートへの侵略を行ったのか？</p> <p>班ごとに仮説を立てる 遊牧民の厳しい生活文化を紹介する。参考文献『騎馬民族国家』江上波夫</p> <p>遊牧民の文明圏への侵略</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国文明への北方異民族の侵略 (図表で確認)</li> <li>・征服王朝の形成 (板書で説明)</li> <li>・モンゴル帝国の成立 (板書で説明)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>班内で意見をまとめ、発表させる。【知】</li> <li>評価方法 班ごとの発表</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめ 50分</li> </ul>	<p><b>Question 4</b> _____</p> <p>東西交易ルートによって運ばれた文物・習慣は？</p> <p>班ごとに考える</p> <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東西交流という観点から遊牧民や東西交易ルート(ステップ・シルクロード)が果たした意義を考察する。</li> <li>・遊牧民による征服王朝が形成された(特にモンゴル帝国)ことによるユーラシア大陸の東西に与えた影響を解説する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人の意見をプリントに書き、班内で意見をまとめる。【知】</li> <li>評価方法 個人の意見をプリントに書き、授業後に提出させる。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時まで</li> </ul>	<p>次時までquestion 3・4についての調査をして、各班別に発表。</p>		

< 指導上のポイントと考察、生徒の様子、補足 >

新学習指導要領には、「ユーラシアの交流圏」では(ア)海域世界の成長とユーラシア、(イ)遊牧社会の膨張とユーラシア、(ウ)地中海海域とユーラシア、(エ)東アジア海域世界とユーラシアの中から二つ程度選択して交流の具体的様相を把握させる、とあり、また、「日本の高校生の学ぶ世界史...」或いは「世界の中の日本をとらえさせる」などと記されている。

今回は、(イ)と(エ)を選択し、ユーラシアの東西交流を日本人の歴史（自分たちの歴史）と関連させることで世界史学習の導入部分と位置づける。本時では、内陸アジアの交流に利用された交通手段である「馬」を足がかりに、遊牧社会の特徴と草原の道・オアシスの道などによる東西交流の様子を捉え、なぜ遊牧民が交易ルートや文明圏への侵略を繰り返したかや、彼らが築いた征服王朝がユーラシアの東西に与えた影響を考えさせたい。

その際、導入の段階で地域の歴史の中での人々の暮らしと農耕社会の馬の役割を考え、遊牧社会の馬の役割との比較をすることで、遊牧社会の生活や文化・国家形成までを生徒たちに考えさせる。

進め方としては、質問を投げかけて、それに対し、班毎に仮説を立てて話し合い、後でそれを班毎で調査し答えを導き出す。

< 単元の計画 > ユーラシアの交流圏

- 1 時間目：ユーラシアの4つの交流圏についての概要
- 2 時間目：遊牧社会の膨張とユーラシア...農耕民族と遊牧民の生活の比較から...（本時）
- 3 時間目：遊牧民の行動と東西交易ルートによって運ばれたものについて（Q1・Q2）の発表
- 4 時間目：東アジア海域とユーラシア...日本と中国・朝鮮の文化交流から...  
ユーラシアの交流圏のまとめ

- 1 村史・町史を読んだり、お年寄りから昔の郡上の様子を聞いて、農村社会での馬とのかかわり合いを知るとともに、他地域と離れた山間の地域の交流の実態を知る。このとき、なるべく聞き取り調査だけに終わらないように、資・史料による裏付けをさせる。
- 2 地図帳を使い、草原地帯・オアシス地帯が現在でいうと、どの国・どの地域に当たるかを調べてプリントにまとめる。

参考文献

- ・『騎馬民族国家』江上波夫（中公文庫）
- ・『図説郡上の歴史』岐阜県の歴史シリーズ（郷土出版社）
- ・『手作りの資料館 円空のふるさと美並村』（美並村教育委員会）
- ・『無形文化財 郡上踊り』（八幡町郡上踊り保存会）



毛付馬市大手芝の図（八幡町塩谷家蔵）

【資料編】

郡上の民と馬 『手作りの資料館』から

美並村の農家の多くは馬を飼っていた。明治5年の「村明細」によると、戸数818戸で馬が380頭になっている。農耕用・運搬（馬車）用などに使われており、家族同様であった。厩は家の入り口にあり、くぐり戸を開けて中にはいると、最初に出会うのが馬であった。

「春駒」の一節 - 郡上は馬どこあの磨墨 『郡上踊り』から  
（前略）

郡上は馬どこあの磨墨 名馬出したも気良の里  
馬は三歳馬方二十歳 着付たつづらの品の良さ  
（後略）

郡上踊りの名曲「春駒」は元々「焼き鯖」という曲だったものを明治時代に全国民謡大会に出場する際に「春駒」と改めた。その歌詞の中で、「郡上馬どこあの磨墨の...」とある。『平家物語の宇治川の先陣争い』に出てくる磨墨が明宝村の産だとされているが、それを示す明確な史料はない。

毛付け 『図説 郡上の歴史』から

一般に毛付けといい土用末日に行われる年中行事である。毛付け馬市の期限は明らかではないが遠藤氏の頃から行われていたという。遠藤氏は畜産を奨励して年一回農民に夏の土用六日目に二歳駒を城の一の門前の芝野へつれてくるように回状を持って触れた。

芝野へ集まった二歳駒は御厩方によって見分を受け、よい馬はたてがみの一部を切って印して一の門内へ入れ、さらにこの中からよい馬を選び出して必要数を徴発した。徴発した馬の馬主には高価な代償を与えたのであったが、金森氏の代になるとほとんど無償となり、藩士までがわずかな金で馬を取り上げるようになった。

徴発漏れの馬は翌日馬市を開いて競売をした。たてがみを切られた馬は特に高価であったという。他領から商人・農民が集まり賑わったという。昭和初期まで開かれ、見せ物などの興業もあり、たいそう賑わった。



●馬は家族の一員であった